

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

府民に信頼され地域に根ざした、創造性豊かなものづくりができる社会人を育成する。このために次の諸点に留意する。

1. 知・徳・体・技のバランスのとれた人材の育成に努める。
2. 生徒一人ひとりの学力を伸長させ、将来的な展望を持たせ自己実現できるように努める。
3. 生徒一人ひとりを大切にし、人権感覚豊かなエンジニアの育成に努める。

2 中期的目標

1 学力向上のための取組

- (1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善の取組を実施する。
 - ア 授業アンケート及び授業参観を通して、授業力の向上をめざす。
 - イ 経験の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。
 ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成 26 年度 62.6%)を毎年引き上げ、平成 29 年度には 75%以上にする。
- (2) 学習意欲の向上の取組を実施する。
 - ア 基礎学力を向上させる委員会などを設置し、就職、進学に備える。
 ※教育産業などを活用して、基礎学力向上の取組を行う。
- (3) 学校経営推進費事業による支援により、「資格の藤工」を確立する。
 - ア 生徒の自己肯定感の向上と学習意欲の向上のために資格取得を奨励する。
 - イ 高度な資格にチャレンジできる強い精神力を持つ生徒を育成する。
 ※平成 29 年度には資格取得延べ人数の目標を下記の通りとする。また、合格率を 80%以上にする。

計算技術検定	情報技術検定	製図検定 (基礎・機械)	フォークリフト特別講習	ガス溶接技能講習	電気工事士 (第2種、第1種)	危険物取扱者	技能検定(シーケンス制御)	工事担任者・DD第3種
320人	180人	120人	150人	120人	120人	60人	35人	25人

工事担任者・AI	初級CAD検定	消防設備士	技能検定 (2, 3級旋盤)	技能検定 (機械検査)	技能検定 (配電盤)
15人	20人	15人	12人	5人	3人

※平成 29 年度には全生徒が卒業までに 3 つの資格を取得するように指導する。
 ※平成 29 年度にはジュニアマイスター取得者を 30 人以上にする。
 ※第 1 種電気工事士合格者数を 25 人以上にする。

2 確かな進路実現の取組

- (1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して「生きる力」を育てる。
 - ア 教科「キャリアガイダンス」やホームルーム活動等を通して新入生から、職業適性検査、外部人材及び卒業生による講演会等を実施し、キャリア意識を高める。
 - イ 社会人基礎力を育成するために、規範意識の向上を図るとともに企業見学、インターンシップを通して実社会を体験する取組を行う。
 - ウ 応募前職場見学などを積極的に実施し、就職先企業とのミスマッチを防ぐ。
 ※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育推進の肯定的意見を平成 29 年度には 80%以上にする。(平成 26 年度肯定的意見 75.5%)
 ※インターンシップ委員会を充実させ、参加者を 30 人以上にする。
 ※今年度の遅刻者総数を維持する。(平成 26 年 1 月 20 日現在 1584 人)
- (2) 全教員が進路実現に向けて支援する体制を作る。
 - ア 全教員による面接練習、受験対策講習、小論文指導等を行い、支援体制を整える。
 - イ 会社訪問などを通して求人開拓に努める。
 ※進路未定者 2%以内に抑える。
 ※会社訪問数を 180 社以上にする。
 ※就職内定率 100%を維持する。
 ※1 度目の就職試験合格率 80%以上を維持する。

3 安全、安心な学校環境づくりの取組

- (1) 生徒がより相談しやすい環境を作るとともに生徒の情報を共有化する体制をつくる。
 - ア 生徒が安心して学習・相談できる場を確保する。
 - イ 担任団、各分掌、各教科との定期的な連絡会を開催する。
 - ウ 人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。
 ※生徒向け学校教育自己診断の教育相談体制の肯定的意見を 70%以上にする。(平成 26 年度肯定的意見 61.6%)
 ※生徒向け学校教育自己診断の教職員の協力度の肯定的意見を 70%以上にする。(平成 26 年度肯定的意見 59.7%)
 ※生徒向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的意見を 80%以上にする。(平成 26 年度肯定的意見 72.2%)
- (2) 出身中学校との一層連携を強化する。
 - ア 中高連絡会の開催をはじめとする出身中学校との連携を強化する取組を行う。
 ※中高連絡会の開催と連絡会以外でも中学校との連携を強化する取組を展開する。
 ※就学支援及びホームルーム作りを目的として入学時の新入生出身中学校訪問を実施し、平成 29 年度には入学時の中学校訪問(訪問数 40 校以上)を常態化させる。

4 広報活動の推進

- (1) ホームページや学校説明会などを通して積極的に情報発信を行い、工業教育に興味・関心の高い生徒の確保に努める。
 - ア ブログの更新を含め、ホームページの更新回数を増加する。
 - イ 教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心とした中学校訪問を実施する。
 - ウ 体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取組を実施する。
 ※年間ホームページアクセス数を平成 29 年度は平成 26 年度の 1.3 倍に増加させる。(平成 26 年度アクセス数 13118 件(1 月末))
 ※生徒、教員による中学校訪問合計数を平成 29 年度は延べ 100 校以上を維持する。(平成 26 年度 107 校訪問)
 ※体験入学者数(平成 26 年度 182 人)、学校説明会参加者数(平成 26 年度 143 人)、教員向け説明会(平成 26 年度 10 人)を平成 29 年度は延べ 400 人以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【1 学力向上】授業関連での生徒全体の肯定率は 66,2%である。3年生の肯定率は 76%で一番高く、2年生の肯定率は 53%で一番低くなっている。3年生になると、一定自分の学力の定着を実感できるのであるが、2年生は、本格的に専門科目が始まるための戸惑いと考えられる。より丁寧な指導が求められている。</p> <p>【2 進路実現】キャリア教育関連での生徒の肯定率は 80%である。さらに保護者の肯定率も 92%であり、概ね本校の進路指導を含めたキャリア教育は有効な取り組みであると考えられる。さらに、本年度新たに追加した「挨拶の励行」においての肯定率は教職員 88%、生徒 78%、保護者 77%であり、平素から生徒の挨拶ができていていると考えられる。</p> <p>【3 安全安心】人権教育関連での肯定率は教職員 71%、生徒 73%であり、他者を思いやり、命を慈しむ心の醸成は概ね達成できていると考えられるが、より肯定率を高めていくため、人権委員会の活性化をめざす。</p> <p>【4 広報】保護者対応での肯定率は教職員 77%、また「子どもを藤工に入学させて良かった」での保護者の肯定率は 93%であり、今後は、今まで以上に保護者に関心を持っていただくため、ホームページの充実などを行ってきたい。</p>	<p>第1回 6/29</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「応募前職場見学の参加者を増やすことが大事である。生徒に企業の雰囲気に触れさせるチャンスである」とのご提言いただいた。それを受けて、再度生徒への周知を実施し、参加者を増やすことに取り組んだ。 ・「教員にも企業を深く理解してもらいたいため、会社において教員研修を実施している。ぜひ参加してほしい」とのご意見をいただき、その委員の会社の研修に複数の教員が参加した。 <p>第2回 11/8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭当日であり、生徒たちの様子をご覧いただき、生徒たちが生き生きしている様子であることを評価していただいた。 ・中学の校長先生より、「以前（本校を）見学した中学教員が想像以上の施設・設備が揃っていることに驚いていた。生徒にも身近にこういう高校があることを知らせていく」との後押しをいただいた。 ・「資格取得や就職の状況等をPRすることは重要である」とのご意見をいただき、学校案内パンフレットを今年度刷新した。 <p>第3回 1/25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組が滞りなく進んだこと、さらに次年度の経営計画が刷新されていて、非常に分かりやすいことに、評価いただいた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上のための取組	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取組 ア 授業アンケート及び授業参観を通して、授業力の向上をめざす。 イ 経験の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。</p> <p>(2) 学習意欲向上の取組 ア 基礎学力を向上させる委員会などを設置し、就職、進学に備える。</p> <p>(3) 学校経営推進費事業による支援による資格取得の取組 ア 学校全体で資格取得に取り組む体制を作る。 イ メンタル力強化の取組を実施する。 ウ 資格取得の環境を整える。</p>	<p>(1) ア・26年度授業評価アンケート結果及び授業参観（教員相互も含む）に基づき、個人面談、系（教科）単位で授業改善方策を検討する。 ・研究授業を実施する。 ・職員研修会を実施する。 イ・定期的な学習会を開催する。 ・校内及び校外への授業見学等を実施する。</p> <p>(2) ア・新入生を中心にした基礎学力向上の取組みを展開する。（教育産業の活用も検討し、ホームルーム、教科「キャリアガイダンス」で実施） ・就職対策問題講座を2学年以上で取り組む。</p> <p>(3) ア・資格取得支援チームを設置し、普通科も含めて、資格取得推進に向けて検討する。 イ・キャリアカウンセラーによる講演会及び面談を実施する。 ウ・外部機関との連携、熟練技術者の招へい及び備品等を充実させ、環境作りを行う。 ・より高度な資格へチャレンジさせるために補習講習を充実させる。</p>	<p>(1) ア・指導力・教科力向上を図る職員研修を実施する。（年2回） ・教員が各自の授業分析シートを提出して授業改善に努める。 ・生徒向け学校教育自己診断結果における授業関連項目の肯定的意見を70%以上にする。（平成26年度62.6%） ・研究授業実施回数、授業見学した延べ教員数。（研究授業実施回数・授業見学延べ教員数 平成26年6回、97人→平成27年6回、110人） ・職員研修参加者数を過半数以上にする。 イ・学習会、研修会の実施回数（平成26年度9回→平成27年度10回） ・受講者の学習会への肯定的意見結果。（平成26年度100%の維持）</p> <p>(2) ア・新入生を中心にした基礎学力向上の取組みの実施の有無。 ・生徒向け学校教育自己診断結果における「普通教科の学力向上」の肯定的意見を70%以上にする。（平成26年度66.0%） ・2学年以上での就職対策問題講座の実施の有無。</p> <p>(3) ア・資格取得支援チームの開催回数。（平成26年度4回→平成27年度6回） イ・キャリアカウンセラーの活用回数。（平成26年度20回→平成27年度20回） ウ・外部機関の連携実績。 ・資格取得者総数の維持及び合格率を80%以上にする。（平成26年度1月20日現在資格取得者総数951人、合格率55.9%） ・第1種電気工事士をはじめとする高度な資格取得者数の増加。（第1種電気工事士合格者数20人、平成26年度17人）</p>	<p>(1) ア・年2回実施 ・管理職による授業観察も全教員に実施し、助言を行ったり、シートも活用し、教員各自も授業改善に努めた。 ・生徒向け学校教育自己診断結果「授業関連」肯定率65.9%（昨年度より3ポイントアップ）（○） ・研究授業5回実施。その研究授業以外にも教員が各自で授業見学を行い、見学数は延べ195名あり、昨年度の2倍の見学があった。教員の授業力向上の意識は高まったと考えられる。 ・2回の職員研修参加者数は平均59名であり、半数を大きく超えて70%以上の参加があった。（◎） イ・初任者等の学習会は10回実施した。肯定的な意見は100%であり、赴任当初に比べて、授業展開、板書の工夫、規律指導などの力が大きく成長した。（○）</p> <p>(2) ア・教育産業を活用し基礎学力向上に取り組んだ。 ・生徒向け学校教育自己診断「普通教科の学力向上」の肯定的意見66.7%（昨年度より微増） ・主に就職に向けた学力向上を2学年で実施した。（○）</p> <p>(3) ア・資格取得支援チームの開催は昨年度より増えて6回実施した。資格取得に向けて今まで以上の丁寧な指導を行うことができた。（○） イ・キャリアカウンセラーの活用回数は20回であり、講演会等も実施し、生徒支援につなげることができた。（○） ウ・外部機関による技術指導、外部機関への見学などを実施した。それにより生徒には本物に触れさせることができ、目的意識を高めさせるとともに技術向上にもつながった。 ・資格取得者数は1080名 合格率62.3%（昨年度より総数・率ともアップ） ・第1種電気工事士に23人が合格し、目標を上回った。（○）</p>

府立藤井寺工科高等学校

<p>2 確かな進路実現の取組</p>	<p>(1) 入学から卒業までのキャリア教育の展開による「生きる力」の育成 ア 教科「キャリアガイダンス」やホームルーム活動等を通して新入生から、職業適性検査、外部人材及び卒業生による講演会等を実施し、キャリア意識を高める。 イ 社会人基礎力を育成するために、規範意識の向上を図るとともに企業見学、インターンシップを通して実社会を体験する取組を行う。 ウ 応募前職場見学などを積極的に実施し、就職先企業とのミスマッチを防ぐ。</p> <p>(2) 全教員が進路実現に向けて支援する体制を作る。 ア 全教員による面接練習、受験対策講習、小論文指導等を行い、支援体制を整える。 イ 会社訪問などを通して求人開拓に努める。</p>	<p>(1) ア・キャリア教育支援委員会を中心に各学年のキャリア教育を検討し、学年間の情報交換を行う。 ・外部人材を活用した各種講演会を開催する。 ・職業適性検査を実施する。</p> <p>イ・遅刻者総数を2000人以下に抑える。 ・インターンシップの充実を図る。 ・挨拶をとおして社会性の育成する ウ・応募前職場見学者数を増加させる。 ・就職した卒業生の在職状況を調査する。</p> <p>(2) ア・教職員対象の面接講座を実施する。 ・教科別の進学希望者対象の講習会を実施する。 イ・積極的に会社訪問を実施する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断結果におけるキャリア教育関連の項目の肯定的意見の割合を80%以上にする。(平成26年度76.6%) ・キャリア教育支援委員会開催数。 ・外部人材による講演回数。(平成26年度7回→平成27年度7回) ・職業適性検査実施回数。(平成26年度2回→平成27年度2回) イ・遅刻者総数。(平成26年度2000人→平成27年度1800人) ・インターンシップ参加者数。(平成26年度31人→平成27年度40人) ・生徒向け学校教育自己診断結果における挨拶の励行について肯定的意見を65%以上にする。 ウ・応募前職場見学者数を150人以上にする。 ・就職した卒業生の在職状況調査の実施。(全国平均の半分以下にする。平成26年度 全国39.6%、本校18.7%)</p> <p>(2) ア・教職員対象の面接講座の実施有無。 イ・会社訪問数を150社以上にする。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育関連」肯定率80%(昨年度より4ポイントアップ)、さらに保護者の肯定率も92.3%であり、概ね本校の進路指導を含めたキャリア教育は有効な取り組みであると考えられる。 ・キャリア教育支援委員会は7回実施 ・外部人材による講演回数は9回実施し、生徒の将来設計能力や意思決定能力等は向上したと考えられる。 ・職業適性検査実施回数は4回実施(◎) イ・遅刻者総数 1417名(前年比大幅減) ・インターンシップ参加者数は36名であり、昨年度より5名増加した。 ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶」肯定率77.5%であり、挨拶のできる学校として着実に歩んでいる。(○) ウ・応募前職場見学者は196名参加しており目標を大きく上回り、ミスマッチを一定防いでいるが、企業の協力も得て、今後参加者を増やしていきたい。 ・在職状況調査において、卒業3年後の本校生徒の離職率は29%であり、昨年度よりは11ポイント上がったが、全国平均よりは下回り、卒業生も一定頑張っていることも伺える。(○)</p> <p>(2) ア・初任者等を中心にOJTを踏まえながら実施した。(○) イ・132社の会社訪問を実施した。好景気ということもあり、新規開拓を積極的には実施しなかったが、就職斡旋希望者約220名は全員就職内定を得た。(○)</p>
<p>3 安全、安心な学校環境づくりの取組</p>	<p>(1) 生徒相談の環境作りと生徒情報の共有化 ア 生徒が安心して学習・相談できる場の設置 イ 担任団、各分掌、各教科との定期的な連絡会の開催 ウ 人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。</p> <p>(2) 出身中学校との一層の連携強化 ア 中高連絡会の開催と出身中学校との連携</p>	<p>(1) ア・生徒相談専用の空間の活用。 ・教室の環境整備。 イ・教育相談委員会の活性化と定期的な生徒の情報交換会の開催及び学年団、各分掌との連絡会を開催し課題解決に向けた校内の組織体制を作る。 ウ・人権教育委員会で生徒への人権教育計画を策定する。また、カウンセリングマインドを持った生徒指導を一層発展させるために教員対象の研修会を開催する。</p> <p>(2) ア・羽曳野市以外の中学校の進路指導主事または生徒指導主事等との連携を強化する取組を実施する。 ・新入生の出身中学校を訪問する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教育相談機能の関連項目の肯定的意見を65%以上(平成26年度61.6%)にする。 ・教育相談室利用者数の把握。 イ・教員向け学校教育自己診断結果における生徒情報の共有化に関する項目の肯定的意見を70%以上(平成26年度60.7%)にする。 ウ・人権教育委員会の実施回数。(平成26年度0回→平成27年度3回) ・人権教育委員会主催による教員研修会の実施(平成26年度0回→平成27年度1回以上)</p> <p>(2) ア・羽曳野市中高連絡会以外に中学校と連携を強化する取組を実施する。(藤井寺市、松原市、富田林市との連携強化) ・年度当初の新入生出身中学校訪問35校以上をめざす。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率64.8%(昨年度より3ポイントアップ) ・教育相談室の利用者数は10名であるが、潜在的に必要としている生徒がいることも予想される。次年度以降、組織の構築と相談室の周知を図っていきたい。(○) イ・教員向け学校教育自己診断「生徒情報の共有化」肯定率73%(昨年度を大きく上回り、13ポイントアップ) 生徒支援の意識が教職員の意識の中に醸成されてきたと考えられる。(◎) ウ・人権教育委員会は3回実施し、「合理的配慮」の理解啓発に向けての取り組みを始めた。 ・人権教育委員会主催による教員研修会は「SNS」と「子どもも元気にする関わり」の2つの講演を実施した。(○)</p> <p>(2) ア・藤井寺の中学をはじめ、松原や富田林の中学との情報交換、学校説明等の連携を実施した。 ・中学校との調整もあり、年度当初の訪問数は12校であったが、最終的には、新入生出身中学に留まらず、80校以上の中学校を訪問した。(△)</p>

府立藤井寺工科高等学校

4 広報活動の推進	<p>(1) ホームページや学校説明会等の積極的な情報発信と工業教育に興味・関心の高い生徒の確保</p> <p>ア ブログを含めたホームページの更新回数を増加させる。</p> <p>イ 教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校訪問を実施する。</p> <p>ウ 体験入学、学校説明会において「資格の藤工」の特色をPRし、本校の良さを知ってもらう取組を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ブログを活用して、タイムリーな情報発信に努める。</p> <p>イ・教職員による積極的な中学校訪問を実施する。</p> <p>ウ・中学校教員対象の説明会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会以外に体験入学を実施する。 ・生徒による出身中学校訪問を実施する。 ・出前授業を10校以上実施する。 	<p>(1)</p> <p>ア・ホームページの更新回数と内容の精選 (平成26年度26年3回/月→平成27年度4回/月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧回数。 (平成27年1月20日現在38706アクセス→平成27年度55000アクセス) <p>イ・教職員による中学校訪問件数 (平成26年度85校の維持)</p> <p>ウ・中学校教員対象の説明会の実施と参加人数。 (参加人数20人に増加させる。平成26年10人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会・体験入学の参加人数の維持。(学校説明会参加者数H26年143人→H27年150人) (体験入学中学生参加者数の維持H26年143人) ・生徒の出身中学校訪問数25校、30人にする。(平成26年度22校、32人) ・出前授業実施校数の維持。 (H26年10校) 	<p>(1)</p> <p>ア・ホームページの更新回数は、月5回平均であり、更新回数は65回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧回数は58,436アクセス(◎) <p>イ・中学校には83校訪問した。(○)</p> <p>ウ・中学校教員対象の説明会には32名が参加し、中学校教員への本校に対する理解啓発は十分にできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会には167名、体験入学参加者は152名であり、本校理解につながった。 ・生徒の出身中学校訪問数は31校で生徒の訪問数は61名であり、生徒参加数は昨年度より倍増した。 <p>母校の中学教員に、本校に行けば3年後にこれだけ成長するというロールモデルを見せることになり、本校をアピールする非常に有効な取り組みであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校との調整もあり、出前授業は9回であった。しかし、本校生徒と一緒に訪問させ、工科高校生の姿を中学生に見せることで、本校に対する理解が深まったと考えられる。(◎)
--------------	--	---	---	---